

地域社会との共存同栄

— 宇部興産スペイン拠点の地域社会貢献



「Kilos de Solidaridad (キログラムの連帯)」のひとコマ

宇部興産株式会社のグループ会社である UBE Corporation Europe, S.A. (以下 UCE) は地中海に面したスペイン・バレンシア州カステジョン県の工業地帯 El Serrallo にあり、欧州や南米における化学製品の製造・販売を統括している。傘下にはデュッセルドルフ(ドイツ)、マドリッド(スペイン)、サンパウロ(ブラジル)にナイロン樹脂の製造会社や化学品の販売拠点など 4 社があり、総従業員数は約 400 人となる。

UCE の始まりは 1960 年代後半まで遡る。ナイロンの原料となる「カプロラクタム」や肥料として使用される「硫酸」の製造をしていた UCE の前身会社に宇部興産が 93 年に資本参加。現在に至るまで拡大と発展を続けることで、地元経済におけるさらなる雇用の創出や現地関連事業の活性化を促す原動力となりながら、宇部興産の創業の理念である「共存同栄」を引き継ぎ、地域社会との共生を推進している。

今回は様々な CSR 活動の中から従業員発信型のボランティア活動と地元地域における人材育成への貢献の事例 2 件をご紹介します。

「リカルド神父の食堂」への支援

スペインはここ数年の経済難で 20% を超える失業者を抱え、若年失業率は 50% を超えるなど社会情勢不安が続いており、生活必需品を賄えずに支援を必要とする人々が急増している。工場があるカステジョン市も例外ではない。そこで、何か会

UBE Corporation Europe, S.A.
CSR 担当役員 Javier Miguel

社として取り組めることはないかと考えた UCE の従業員が、地元で支持されている NGO 団体「リカルド神父の食堂」(el Comedor Social del Padre Ricardo) に物資補助をすることを提案、2012 年に社内承認を得て実施することが決まった。

「リカルド神父の食堂」では国籍を問わず子どもから大人まで、支援を必要とする人々に 3 食・洋服の提供やメンタル面でのケアなど、30 年もその活動を続けており、カステジョン市では同活動のパイオニア的な存在でもある。

UCE では同 NGO に物資を供給するため、12 年のクリスマス時期に 10 数人の従業員が自主的に社内物資収集キャンペーン「Kilos de Solidaridad (キログラムの連帯)」を始動させた(左上写真)。この活動は、貯蔵可能な食料品の収集という至ってシンプルなものではあるが、より多くの従業員の協力を得るために様々な工夫がなされた。例えば、どの部署からもアクセスの良い工場内の複数個所に収集ボックスを設置。また社内イントラネットや掲示板を利用し、キャンペーンの趣旨を説明し、保存の効く米や豆類、菓子類や油などの寄付を社内全体に募った。1 カ月の期間を設けたが、数週間すると大人の腰の高さほどある大きな箱が満杯になり、箱を追加するところもあった。その結果、初年度(12 年度)には 480kg、また今年はそのを超える 750kg 分の食料を集めることができた。

しかし食料を社内で集めるだけではこの活動は終わらない。従業員ボランティアがこれらの物資

を社内のトラックで回収・荷積みをし、「リカルド神父の食堂」に届けることも大事な活動の一部である。米や豆類、油などの重いものを含む物資の移動は容易なものではないが、従業員ボランティアのおかげで無事に運送することができた。

寄付など数値で見られる会社の社会貢献とは違い、従業員発信・参加で用途の見えるボランティア支援が、このように地元住民のニーズに応える新しい取り組みとなった。

地域人材の育成が UBE の発展に

一方で UCE が社会貢献の中でも高いウェイトを置いているのが「教育」である。目に見えやすい経済的な地元への社会貢献だけではなく、スキルの高い人材の確保という側面からも、現地の大学や教育機関などとの提携は欠かせない。その中でも 04 年から継続的な支援を行っている APQUA (Aprendizaje de los Productos Químicos, sus Usos y Aplicaciones : 化学製品の使用方法や用途の学習) プログラムは、地域に根付いた活動として UCE が力を入れている教育支援プログラムである。

APQUA はもともとスペイン・タラゴナの大学の化学工学部やカリフォルニア大学バークレー校(米国)の科学教育関連機関が提携したのが始まりで、化学製品とその用途、その危険性、また化学を中心とした一般教養などについて、人々の理解を深めることを目的としたプログラムである。具体的には、まず近隣地域の高等学校の教師(科学中心)を対象に APQUA の派遣講師による実験研修を実施する(右上写真)。教師たちはそこで得た知識や UBE が提供する APQUA の実験セットを使い、生徒に授業や実験を行う。また、APQUA 主導でアンケートや UCE へのフィードバックも行われている。

UCE は同プログラムへの資金的支援だけではなく、APQUA プログラムに参加した教師に連絡を取り、学生たちの UCE 工場見学を勧めている。工場見学では会社概況の説明をするだけではない。若者に化学離れの傾向がある中で、従業員の



APQUA プログラムの様子

生の声を聞いてもらうことにより、進路決定の大事な時期にいる学生に対して、化学の面白さや将来の有望性を伝えている。また、そこで強調するのは「化学」だけでなく、グローバル化が拡大する中、「コミュニケーション能力」、特に「英語の習得」が非常に大事であることも伝えている。実際に「勉強に集中するように念押ししてほしい」と教師から依頼されていることも、この点を強調する理由の1つではある。

04年から現在まで100名弱の地元地域の教師がこのプログラムを受講。このような地道な活動が学生のモチベーションを上げ、優秀な人材の育成、ひいては地元地域の発展に貢献し、同時に UCE の発展にもつながると我々は信じている。

*

このように UCE の持続的な成長は、地域の産業ネットワークや住民の方々々に大きく貢献すると同時に、長い歴史で培われた UBE の企業精神や理念を、地域社会や文化活動の分野でも広げている。

そして今年は宇部興産のカステジョン県における事業参画から 20 年目となる節目の年となり、記念セレモニーを 7 月に行う予定である。今日まで UCE が持続的成長ができたのは、カステジョン県および全てのステークホルダーの方々のご支援・信頼があってこそ。この場をお借りして感謝の意を申し上げたい。また、UCE グループは共存同栄の精神の下、皆さまと共にさらなる成長に向けて躍進したい。

◆宇部興産(株)の環境安全・社会貢献

<http://www.ube-ind.co.jp/japanese/eco/index.htm>